



## 新年にあたって

会長 船本正也

2022年の年が明けました。

昨年夏、日本中を熱くした「東京 2020 オリンピック・パラリンピック」が開催されてから半年が過ぎました。新型コロナに翻弄され続けた日々ではあったものの、スポーツを「する」「見る」「支える」の3要素が見事に調和して、閉塞感に満ちた社会に風穴を開けることができた大会だったと思います。東京 2020で全てのアスリートたちに送られた声援は本霊となってスポーツファンの心にも反響し、その余韻は今も脈々と続いています。

今年は、善光寺でのご開帳、諏訪大社での御柱と2つの大祭が同じ年に開催されるという、長野県にとっては特別な年です。新型コロナの終息と平穏を祈ると同時に、社会に躍動感の到来を願う気持ちが自然と溢れてくるに違いありません。地域の調和や活性化に対して「スポーツ」が果たせる役割は、それらの大祭と等しく大きなものと思います。長野県民の喜び、誇り、一体感、向上心などに訴えかける大切な文化的価値です。

私たち(一財)長野県バレーボール協会も長野県スポーツを支える一員として、バレーボールという競技を通じて、よりよい社会作りに向けてしっかり貢献していかなければなりません。

Vリーグ・男子のVC長野トライデンツ、長野ガロンズ、女子のルートイングループ・ブリリアントアリーズの活躍によって、県民に明るい話題をたくさん届けられますように。小・中・高・大学・実業団・クラブ・ママさんなどの「するスポーツ」を通じて、若者の健全な人間形成を助け、健康長寿に貢献し、地域コミュニティの益々の活性化につながりますように。

長野県が躍動する年に、こうした目標に向かって当協会が幾つもの大会を運営していくためには、協会関係者はもとより、ボランティアの皆さんを含め多くの方々のお力添えがなくてはなりません。いまだ終息を見ない新型コロナと共存し、新しい日常に合わせて安心・安全を担保しながら活動しなければならない時にあっては尚更のことです。

この場をお借りて、皆々様の益々のご尽力・ご協力をお願い申し上げますとともに、長野県のバレーボールが更に飛躍すること、様々な競技会に出場される全てのチームの皆さんが大いに活躍されることを心より願い、また全ての皆様のご健勝をお祈りして、年頭の挨拶とさせていただきます。



以上

## 男子は優勝した東京都に屈してベスト8 女子も16強止まり

【県強化委員 木下久資】

12月19日(日)、松本市立筑摩野中学校での壮行会では、主催者である読売新聞社松本支局長の新井様や本協会の村上専務理事から激励の言葉を頂戴した後、高校生との練習試合や平日練習で最後の調整をした後、24日(金)には男女共長野県を出発。大阪での本大会に臨みました。



昨年はコロナ禍で中止となったこの大会。感染者数は11月時点で減少傾向にあったものの、12月に入ってオミクロン株という新たな心配要素も出て来て、厳戒体制の中での開催となりました。例年25日に華やかな雰囲気で行われていた開会式は無し(25日は代表者会議のみ)。26日(日)の3チームによる予選グループ戦で決勝トーナメントに進出出来るのは1チームのみ(例年は2チーム)。又、試合会場に入れるのは、選手12名＋スタッフ3名を除くと、予め申請したチーム関係者3名と保護者12名のみ。しかも決められた時刻に全員で入場し、試合終了後は一斉退場と同一行動を義務付けられ、会場内での練習にも時間や内容に厳しい制約が付く等々、ここに書き切れない程の感染症対策が施されました。その対策とどう折り合いを付けるかという面に気を遣う大会でもありました。

【男子監督 山岡航太郎(県強化委員・安曇野市立三郷中学校)】

丸善インテックアリーナ大阪(大阪市中央体育館)をメイン会場に、男子の予選グループ戦の相手は神奈川県と岩手県でした。初戦の神奈川戦は固さもありましたが、大会前の数日間の練習ではゲームの流れを左右する「8点目までの点数の取り方」を徹底的に練習してきた成果が出て、夏の全国大会出場チームの選手を中心とする相手に序盤から慌てること無くゲームを組み立てることが出来ました。次の岩手戦は、感染症対策で1試合目終了後に連続しての試合となりました。10分程の短い試合間でしたが、補食やアイスマッサージなど、しっかり準備しておいたことが奏功し、序盤から選手達の良い動きに繋がりました。相手は夏の東北大会優勝校の選手を中心にしたチームでしたが、小さくても豊かなジャンプ力と切れがあるサイドのプレーヤーだけでなく、ミドルの選手もクイックとブロックで機能。序盤にリードを許す展開となった2セット目も、途中交代の選手の活躍もあって逆転で奪取し、決勝トーナメント進出を決めました。

翌日の決勝トーナメント、初戦の相手は宮崎県でした。夏の九州大会優勝校の選手中心のチームでしたが、この試合でも鍛えて来たミドルプレーヤーが活躍。一方的に1セット目を奪うと、20点過ぎに追い付いた2セット目も、相手を23点で振り切って準々決勝に進出しました。

その準々決勝、相手は夏の全国大会優勝の淵江中、関東チャンピオンの駿台学園中、そしてそれ以外にも全国大会に出場した2チームの選手を擁する東京都が相手でした。この試合では、相手の高さや粘り強いブロックやレシーブ、こちらのレシーブシフトを把握しての攻撃等になかなか対応することが出来ず、メンバーチェンジ等を多用して総力戦で挑みましたが、14点と18点で悔しい敗戦となってしまいました。

しかし、夏の全国大会に出場した選手が一人もいない中で、ベスト8という成績を残せたことは、間違いなく選手達の努力の賜であり、長野県中学男子の総力をアピール出来たのではないかと思います。



【女子マネージャー 齊間香里（県強化委員・上田市立塩田中学校）】



女子の予選グループ戦は、久々に"おおきにアリーナ舞洲まいしま"がメイン会場となりました。本県女子チームは、そのサブ体育館での試合でした。第1試合の対戦相手は奈良県。当日早朝より別会場を確保して1時間程アップをしてから臨んだ1セット目でしたが、なかなかリズムに乗れずに動きが固いまま、そのセットは22点で奪われました。しかし2セット目からは修正し、165 cmに満たないサイドアタッカー陣が強気に攻めて15点でセットを奪い返すと、勢いそのまま、15点先取の3セット目は9点に押さえて勝利しました。続く第2試合の対戦相手は栃木県。第一試合同様に、初対戦で情報のなかった相手でしたが、2枚エースをブロックでマークする一方、セッターのトス展開からハイブリット攻撃で加点。センターからの力強い攻撃を軸に1セット目を取りました。2セット目は、相手のしぶといレシーブで終盤まで競い合う展開となりましたが、最後はサイドアタッカーがスパイクを打ち切り、25-23で勝利しました。

翌日、会場を丸善インテックアリーナ大阪に移してスタートした決勝トーナメント1回戦。対戦相手は予想していた山口県ではなく、佐賀県となりました。セッター以外が170 cm以上という高さからのスパイクが、ブロックの上や隙間から決まって失点を重ねてしまいました。1セット目を18点で落とし、何とかリズムを変えようと全員バレーで臨んだ2セット目も20点で取られ、1回戦敗退のベスト16という結果でした。

しかしながら、9月は新型コロナの警戒レベルが高い地区の選手は全く練習に参加できないなど、チーム作りにかけることができた時間は短かった中で、選手12名とスタッフが固い絆を結んで臨んだこの大会は、価値ある記憶に残る時間となりました。各選手の今後の活躍に期待し、応援し続けていきたいと思ひます。



以上のように男女共、優勝という目標には届かなかった訳ですが、昨年9月のチーム結成以来、僅か4ヶ月で選手達は大きな成長を見せてくれました。「この選手達を未だ未だ指導していきたい」という思いを、関わったスタッフ全員が今でも思えるチームになりました。男女共この経験を活かして、次のステージに進んで欲しいと思ひます。

最後になりましたが、御支援を頂きました読売新聞社様、(一財)長野県バレーボール協会の皆様、そして県内各高校の皆様に御礼を申し上げます。

## 令和3年度 ジュニアクラブチーム設立に関わる情報交換会を開催しました

【ジュニアクラブ創設推進プロジェクト担当理事 城倉 淳】

12月19日(日)に標記の情報交換会を伊那市防災コミュニティーセンター研修室にて実施しました。

令和2年9月に文部科学省から示された「学校の働き方改革を踏まえた部活動改革 概要」の中にある、改革の方向性として生徒の活動機会を確保するために、休日における地域のスポーツ・文化活動を実施できる環境を整備し、具体的な方策として令和5年度以降に休日の部活動の段階的な地域移行をするという内容を受け、県協会および各地区協会として、ジュニア世代の地域スポーツ環境のあり方について検討する趣旨で開催しました。



今回は各地区の理事長に加え、県指導普及委員および各地区でジュニアクラブ設立に関わっている方々へ出席していただきました。初めに村上専務理事からスポーツ庁と経済産業省のホームページから抜粋した資料を提示していただき、基本的な知識を研修した後、既に各地区でジュニアクラブを立ち上げている皆様から現状を発表していただきました。

それぞれの地域の実情に配慮しながら草の根の活動を始めている皆様の熱い発表を拝聴し、担当者として多くの学びを得ることができました。

今後このような情報交換を増やし、ジュニア世代の地域スポーツ環境の発展に寄与することが、この会の重要な仕事であると確信しました。

## 第7回 全日本9人制バレーボール女子セカンドリーグ開催

【県実業団連盟理事長 島津鉄男】

12月11日(土)・12日(日)の2日間に渡って、標記大会を上田自然運動公園総合体育館にて開催しました。

この大会は、6人制のVリーグではDIVISION 2に相当するリーグで、その上にはDIVISION 1に相当するトップリーグがあります。

大会には、パナソニック津アドバンス(以下「パナソニック津」)、大阪シティ信用金庫、東京女子体育大学(以下「東女体」)、日本女子体育大学、日本体育大学に加え、県内からセイコーエプソン、松本市役所の計7チームが参加しました。

11日は3チームと4チームに分かれてのリーグ戦を行い、12日は予選グループ上位2チームが準決勝に、下位3チームは順位戦に回りました。

決勝は、3連覇を狙う東女体 vs 初優勝に燃えるパナソニック津の対戦となりました。セット序盤、先行する東女体に対し、中盤に追いつき逆転したパナソニック津が、終盤の東女体の追い上げを振り切って念願の初優勝に輝きました。

この結果、パナソニック津は来季トップリーグに昇格することになりました。

県勢では、セイコーエプソンが5位、松本市役所は7位の成績でした。

各試合とも、9人制特有のネットプレーや醍醐味である好ラリーの応酬で、見応えのある試合が非常に多かった大会でした。

本大会は当初、9月に池田町で開催予定でしたが、コロナ蔓延で延期され、今回の上田市での開催となりました。

最後に、大会運営に関しまして日本実連事務局、県協会、うえだ協会始め多くの方々にご協力を頂き、無事終了できましたことを感謝申し上げます。

## 2028 全国障がい者スポーツ大会

### 公益財団法人 長野県障がい者スポーツ協会と対応を協議!

【県協会専務理事 村上里志】

12月9日(木)、塩尻市民交流センターにおいて、2028年(令和10年)に長野県内で開催される全国障害者スポーツ大会の選手発掘と強化育成について、県障がい者スポーツ協会と協議を致しました。

県障がい者スポーツ協会からは専務理事はじめ4名の方が出席。当協会からは、パラスポーツ担当の吉川理事と専務理事の私が出席しました。

2028年までの概スケジュールの擦り合わせを行い、2022年度に選手発掘、2023年度には知的障がい者男女チームの立ち上げ、同年度より本格的な強化活動に入ることが確認されました。また、具体的な活動開始に伴う補助金や経費負担などについても、突っ込んだ話し合いがなされました。

最後に2028年は一つの通過点と考え、それ以後もパラスポーツの更なる普及及び発展に繋げる活動としていくことを両者で確認して閉会としました。

当協会では、今年度中に知的障害者チームの指導体制を整えて参ります。協会員の皆様には、パラスポーツへのより一層のご理解をお願い致しますと共に、吉川理事をはじめ、担当される皆さんへのご支援をお願い致します。



## 北信越バレーボール連盟組織団体運営会議・正副理事長会議を開催

【県協会専務理事 村上里志】

12月11日（土）富山県砺波市において、北信越バレーボール連盟組織団体運営会議並びに正副理事長会議が開催されました。

会議では令和3年度各事業の報告、令和4年度事業計画・競技日程の確認、JVA理事会の報告などがありましたが、特に注視すべき情報として、2023年度より中体連主催大会へクラブチーム（中学生で構成する）の参加を可能とするよう、スポーツ庁より日本中体連に要請がなされるということです。



本協会においても、教員の働き方改革に伴う受け皿づくりの一環で、各地域でジュニアクラブ創設の動きが始まっていますが、ジュニア世代（中学生）の競技環境の再整備を急ぐ必要性を改めて感じました。

会議終了後、2年振りに北信越連盟役員懇親会が開催され、コロナ禍に翻弄された2年余りを振り返りつつ、更なる北信越連盟の結束を誓い合う機会となりました。

## マルニシCUP 第39回長野県小学生バレーボール大会長野県大会を開催

【県小連理事長 西澤悦郎】

この大会は、一昨年度までの協賛会社が今回から変更となったことで、大会名も「さわやか信州CUP」から表記のように変更されました。

さてその大会ですが、新型コロナウイルス感染症第5波の影響で日程及び会場が大幅に変更となりましたが、各地区の大会を勝ち抜いた男子4チーム、女子8チーム、混合3チームが参加して、12月5日（日）に大町市総合体育館等で何とか開催することが出来ました。

男子は小布施スポーツ少年団が16回目の優勝を飾り、女子は富士見サンキッズが、混合は鬼無里がそれぞれ初優勝を果たしました。以下、各優勝チームの代表者のコメントです。

### 「第39回長野県小学生バレーボール県大会 優勝」【小布施スポーツ少年団男子監督 鈴木直人】

本年度より株式会社マルニシの協賛を頂き、大会名も変更になって第一回目の大会で優勝できて本当にほっとしています。というのも、私が㈱マルニシに勤めているからです。

夏の県大会で優勝しても、秋の県大会で優勝できなかったチームが過去にも多々ありました。六年生は、夏から冬にかけて著しい体の成長があるため、伸びる子では170cm以上になる場合もあるからです。我が小布施に関してはその恩恵を受けることができず、一番大きい子が153cmでした。しかし、六年生の2人を中心に、とにかく拾いまくりネットから上に上がったボールは、アタックラインの後ろだろうが全て攻撃をかけさせました。決勝では、いつもより2歩下がってサーブを打たせ、常に全員に攻撃することを意識させました。

六年生最後の大会で、小布施の小さい子供たち全員が本当に楽しそうに、小布施らしいバレーを最後までしてくれました。

いつもご尽力を頂いている県協会の皆様、県小連の役員の方々、今回の大会を開催して頂いたことに深く感謝申し上げます。ありがとうございました。



### 「マルニシCUP県大会優勝によせて」【富士見サンキッズ監督 池上陽子】

六月の全日本小学生バレーボール県大会優勝から半年、夏にはコロナの影響で一か月半練習自粛を余儀なくされ、張り詰めていた気持ちが次第に緩慢になってしまった時期もありました。

練習再開から二週間後に行われたスポ少バレーボール県大会で他のチームの成長に刺激を受け、自分たちの力のなさを実感し、「心を燃やせ!限界を超えろ!!」を合言葉にもう一度優勝することを目標として努力を続けてきた子どもたち。多くのチームの皆さまと練習試合をさせて頂き、いろいろな経験をさせて頂きました。そしてたくさんのチームと仲良くなることができました。「同じ夢を持つ仲間が長野県にはたくさんいる」と思えたことは、優勝することと同じぐらい価値のある宝物だと思っております。勝ち続けることの難しさと矜持。多くのことを学ぶことが出来た一年間でした。富士見サンキッズが優勝できたのも関わっていたいただいたすべての皆さまのお陰です。本当にありがとうございました。

子どもたちにはいつも感謝と敬意の心を忘れずこれから先のバレーボール道も邁進してほしいと思っております。

最後になりますが、大会を開催して下さった株式会社マルニシ様、県小連バレーボール協会関係各位に深く感謝申し上げます。



### 「マルニシCUP県大会混合の部 優勝」【鬼無里バレーボールクラブ代表 室賀真喜男】

12月5日(日)、大町市の仁科台中学校体育館で開催されたマルニシCUP第39回長野県小学生バレーボール県大会の「混合の部」で優勝することができました。6月の全日本に引き続いての優勝ではありましたが、北信地区大会で県大会の出場権を掴み取るまで壮絶な戦いをしてきましたので、出場できなかったチームの分まで頑張り、責任が果たせて感無量です。小柄なチームですので、いつも苦戦を強いられますが、最後まで諦めない粘り強いチームになったと思います。

なお、コロナ禍で大変な折、今回株式会社マルニシ様にはご協賛を頂き、こうした大会に出場できることに改めて御礼を申し上げると同時に、県協会の皆様を始め、関係者の皆様に心より感謝申し上げます。



## ルートイン 2021 年を白星で締める! V2 女子 軽井沢町で熱戦!

【佐久平協会理事長 宮澤 智昭】

12月4日(土)・5日(日)、軽井沢町の風越公園総合体育館にてGSS東京サンビームズのホームゲームが開催されました。

昨シーズンは、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、無観客のリモートマッチでしたが、今大会は有観客での開催となりました。昨年同様、競技スタッフは最小限ということで、クイックモッパー、ボールリトリバーは配置せず、ワンボールシステムで運用しました。軽井沢スポーツ協会様の御協力も頂きながら、無事終了することができました。



# 北信越バレーボール連盟審判委員長会議報告

【県審判委員長 中島俊昌】

令和3年12月18日(土)、富山県富山市総合体育館の研修室において北信越ブロック審判委員長会議が行われました。

会議の内容は、日本バレーボール協会審判規則委員会への報告事項である、令和3年度の間接事業報告の確認及び、令和4年度国内競技会への派遣審判員の調整についてでした。

国内競技会、いわゆる各カテゴリーによる全国大会への派遣審判員については、全国9ブロックに割り当てられた数少ない枠について、ブロック内において調整して派遣審判員を推薦し、審判規則委員会において最終決定がなされて派遣審判員として活動ができることとなります。よって、A級審判員であっても全国大会において活動できるチャンスを掴むのは僅かなメンバーとなります。従いまして、この会議は各県審判委員長との駆け引きによる枠取り調整会議とも言えます。

本年度も、新型コロナウイルス感染症拡大により殆どの全国大会が中止となり、活動の機会が失われておりますが、来年度においては全ての大会が開催されて審判活動が出来ることを願うばかりです。

## 12月試合結果

- ☆ 2021-22 V.LEAGUE Division2 WOMEN (GSS 東京)  
<https://www.vleague.jp/form/a/27106>  
<https://www.vleague.jp/form/a/27107>
- ☆ マルニシ CUP 第39回長野県小学生大会  
[http://nagano-va.or.jp/GAMESchedule/2021siaikeka/R3.12.5\\_MARUNISHIcup.pdf](http://nagano-va.or.jp/GAMESchedule/2021siaikeka/R3.12.5_MARUNISHIcup.pdf)
- ☆ 天皇杯・皇后杯全日本選手権大会 ファイナルラウンド  
[http://nagano-va.or.jp/GAMESchedule/2021siaikeka/R3.12.19\\_tennohai\\_final.pdf](http://nagano-va.or.jp/GAMESchedule/2021siaikeka/R3.12.19_tennohai_final.pdf)
- ☆ 第7回全日本9人制セカンドリーグ 女子  
[http://nagano-va.or.jp/GAMESchedule/2021siaikeka/R3.12.12\\_V9\\_second\\_women.pdf](http://nagano-va.or.jp/GAMESchedule/2021siaikeka/R3.12.12_V9_second_women.pdf)
- ☆ 第7回全日本9人制バレーボールトップリーグ 男子 (V9 チャンプリーグ)  
[http://nagano-va.or.jp/GAMESchedule/2021siaikeka/R3.12.19\\_V9\\_men.pdf](http://nagano-va.or.jp/GAMESchedule/2021siaikeka/R3.12.19_V9_men.pdf)
- ☆ JOCジュニアオリンピックカップ 第35回全国都道府県対抗中学大会  
[http://nagano-va.or.jp/GAMESchedule/2021siaikeka/R3.12.28\\_JOC.pdf](http://nagano-va.or.jp/GAMESchedule/2021siaikeka/R3.12.28_JOC.pdf)

## 1月スケジュール

1/5(水)～9(日)	春の高校バレー 第74回全日本高等学校選手権大会	(東京都)
1/15(土)～17(月)	長野県高等学校新人体育大会バレーボール競技会	(岡谷市)
1/15(土)～16(日)	2021-22 V.LEAGUE Division2 WOMEN (ルートインホテルズ)	(千曲市)
1/15(土)～16(日)	2021-22 V.LEAGUE Division3 MEN (ガロンズ)	(須坂市)
1/22(土)～23(日)	エプソン杯第37回長野県中学校選抜優勝大会	(東信地区)
1/29(土)～30(日)	2021-22 V.LEAGUE Division1 MEN (VC長野)	(岡谷市)
1/29(土)～30(日)	2021-22 V.LEAGUE Division2 WOMEN (GSS 東京)	(軽井沢町)

いつもNVAニュースをご覧いただき誠に有難うございます

皆様のご健康とご多幸をお祈りいたします

本年もどうぞ宜しくお願いいたします

NVAニュース編集委員会  
村上里志、赤間善浩、木下久資、堀内和美